

企業のネットが星を被い、電子や光が駆け巡っても、国家や民族が消えてなくなる程、情報化されていない近未来、特務局7に所属している、"Modern Ka Lakita" は、GreyHawk に本拠地を構える Demon Prince Orcus を信仰しているテロ組織 "織苦棲" の捜査に失敗し、Orcus の呪いにかかってしまった。

呪いを解く方法を探していると、ゴスロリ風味な局長に呼び出された。

「これからする私のお願いに『はい』か『Yes』で答えてください」

「Orcus の呪いを解く方法を発見しました。巨大ダンジョン、Rappan Athuk に潜む Demon Prince Orcus を暗殺する事で呪いを解く事ができます。また、これで、"織苦棲" も壊滅するでしょう。」

ああ、拒否れねーよ、と思い答えた。

「私、Wealth 25 なんて、弾薬無限に持っていて良いですね。あと、突げ……じゃなくって、足用に車貸してください。」

すると、笑顔で

「Rappan Athuk は今から 1000 年前に存在 "する" ダンジョン です。大丈夫、タイムトラベルの準備はもう出来ています。」

突然、ウィザードが数人出てきて、体をつかまれた。

「そうそう、タイムパラドックスを避けるため、こちらでの装備は全部置いてってください。大丈夫。現地での資金も用意しました。必要なものは現地で買ってください。そうそう、Soulgun の能力も Soulbow と主張する事を忘れずにー」

Modern は気がついたら、手には 5400gp のみを持ち、裸でのシャーシンの門の前に立っていた。

エピローグ

大迷宮を突破し Orcus を倒したが、666 年後（あるいは 334 年前）に復活する事を知らされて Modern は少し絶望的な気分になった。

街に戻り、そのまま大宴会に突入した。確かに彼らは野蛮ではあったが、仲間達と交わすエールの盃は、大規模潜入破壊工作を終えた後の合成エタノールの味と同じものだった。これまでの無茶苦茶な戦闘が頭をよぎっていた。何度も二度と来ないと心に誓った事だろうか。それなのに、気がついていると迷宮の入り口の前に立っていたのだった。今となってみると、この迷宮に潜り続けてきた日々が懐かしく思えた。

喜んでいる仲間達と一緒に思い出を科り合っていると、いつしか絶望的な気分も、何とかなさ、と思いはじめた。次はきっともっと上手くやれるだろう。そのためには、もっと必殺技を学ばなくてはいけないだろうなあ、と考えはじめていた。

強いアルコールにやられ、頭も重くなり、眼も霞みはじめ、頭を盃の中に突っ込んでいた。

気がつくと CY1597 グレイホーク、自宅マンション前のゴミ捨て場で倒れていた。夜だった。眼に入ったのは、スモッグの煙に霞んで見える怪しく光る広告飛行船だった。ケバケバしく光るネオンサインが、眩しかった。

.....
.....
.....
.....
.....
.....

Orcus だった。

思わず口から出た「O……Orcus……、なぜこんな所に……」

Orcus は大きく口を開けながら笑っていた。「Haaaaa、上司に対してその口の聞き方はないだろう」

局長も「そうよ、失礼よ」と笑いながら茶々を入れている。

Orcus は続けた。「まあ、お前には感謝しなくてはいけないだろう。1000 年前に Mortal どもに倒される事によって、Mortal 相手でも油断をしないという教訓を得る事ができた。おかげで 334 年前に復活した時には Material Plane を征服する事ができたぞ。Huhaaaaaaaaaaaaaa」

「お前にはそのお礼をしなくてはなあ……」すると突然 Deamon が数体やってきて体を押さえつけてきた。

「お前は過去が大好きなようだからなあ、また過去に送ってやろう。そうだなあ、どこにしようかなあ……」。水晶を見つめながら Orcus は笑っていた。

「おっ、この 995 年前ぐらいの Elsir_Vale っていう場所って何か良く分からないけれども次元の歪みが酷くなっているなあ。……この時何かあったっけなあ、昔過ぎて覚えてないなあ……。……確かどこかの誰かが色々な次元界を超えて Material Plane に攻め込もうとしていたんだっけなあ……。よし、お前ここに行って調査してこい。な？」

私は心の中でほっとしていた。もしかしたら、これでまた歴史を変える事ができるかもしれない。また仲間と冒険をする事ができるかもしれない。

その時横で控えていた所長が悪魔的な笑顔で言った。「そうそう、ちょっとあなたは反抗的な眼をしていますね。教育してあげましょう」と言って、指を私の額に押し付けてきた。すると突然、電撃が私の体を駆け巡った。舌が痙攣していた。

「g れ：味：hrv んぱえ l；wkm c r ヴおぺ j r ぺmv r：ぺmb t p bm ぺ」

これまでの価値観が、守ってきた物が、優先順位が……段々とどうでも良いものに思えてきた。必死でそれを繋ぎ止めようとしていた。しかしそれも無駄だった。段々と頭が朦朧としてきた。気絶する直前、最後に脳裏にあったのは「助手席の足元に投げ込んでいた盃」だった。

数日後、ワタシは突撃用の車に無限に弾薬を積み、995 年前の Elsir_Vale に旅立っていた。

Soul Bazooka (Su)

AoO を誘発する Full-round Action

Soulgun を変形させ、5ft radius の Area Attack を行う。

ダメージは Soulgun を 4 段階大きい武器として扱った時と同じ。

Ref half (DC=Attack Roll の結果と同じ)

Soulbow LV/day

だった気がする。